

房どりトマトの果房特性

古野 伸典・石山 新治・阿部 清*

(山形県立園芸試験場・*山形県農業研究研修センター)

Fruit Truss Characters of Cluster-harvesting Tomato

Shinsuke FURUNO, Shinji ISHIYAMA and Kiyoshi ABE*

(Yamagata Prefectural Horticultural Experiment Station・
*Yamagata Agricultural Research and Training Center)

1 はじめに

日本での房どりが可能なトマトの普及は遅れているが、ヨーロッパ諸国では出荷量の大半を占めている。ヨーロッパで房どりトマトが普及した要因としては、つるが付いているため棚持ちが向上する点や収穫労力が軽減される点などであり、小売りの形態は量り売りが多い。日本での出荷形態は、パック詰めでの流通がほとんどで、つるの緑と果実の赤のコントラスト、外観の美しさが重要になる。

一方、栽培面ではつるの長さや果実の個数が変化し、果房の形が乱れることが課題である。特に、つるの長さに対して果実の数が少ない間延びした果房の発生が問題となっている。量り売りでは問題にならないものの、日本のようにパック詰めが基本となる場合は果房長と容器の大きさが対応している必要がある。今回の試験では、房どりが可能と思われた2つの品種‘レンブラント’と‘ファン・ゴッホ’を対象に、収穫期間を通しての果房長と果実数を中心に、果房形質を調査したので報告する。

2 試験方法

(1) 栽培概要

1) 播種、育苗 2月18日 幼苗接ぎ(3月10日)の後、10.5cmポリポットに鉢上げ

2) 栽植距離 うね幅240cm 株間40cm 1条植え

3) 仕立て法 2本仕立て(第1花房直下の側枝を使用)

4) 定植日 4月13日

5) 収穫 ‘レンブラント’は主枝10段、側枝9段まで、‘ファン・ゴッホ’は主枝9段、側枝8段まで。毎週2回、果房内で8果以上着色した房を収穫。

(2) 調査果房

6月26日から8月21日までに収穫されたすべての果房。ただし、すべての主枝第1果房は着色が不均一のため、房どり調査の対象外とした。

サンプル数 ‘レンブラント’: 222果房

‘ファン・ゴッホ’: 186果房

(3) 果房の調整

果房内で8果以上着色したものを収穫し、「裂果」や「未着色果」を摘果し調整した。また、果房のバランスか

ら摘果した方がよいと思われる果実を「個どり果」として収穫した。複果房は2つに分け、調整した。調整後に6果以上となったものを房どり果房とし、調査を行った。

3 試験結果及び考察

収穫日別の調整前の房長を‘レンブラント’について図1, ‘ファン・ゴッホ’について図2に示した。‘レンブラント’では収穫開始時期では15~25cmだったものが徐々に長くなり、7月中下旬には最大で40cmの果房も見られた。それ以降は徐々に短くなった。‘ファン・ゴッホ’でも同様に推移し、収穫開始時期から7月中下旬まで徐々に長くなり、最大で35cm以上となった。それ以降は徐々に短くなった。

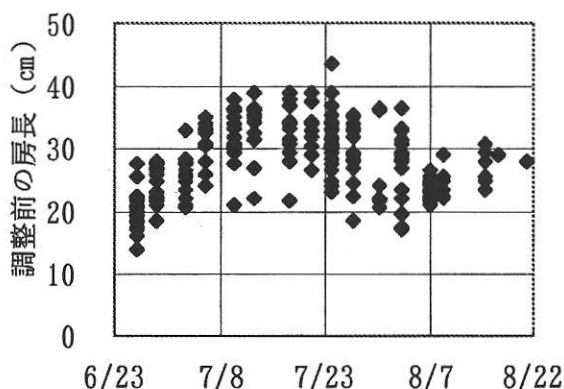


図1 収穫日と房長(レンブラント)

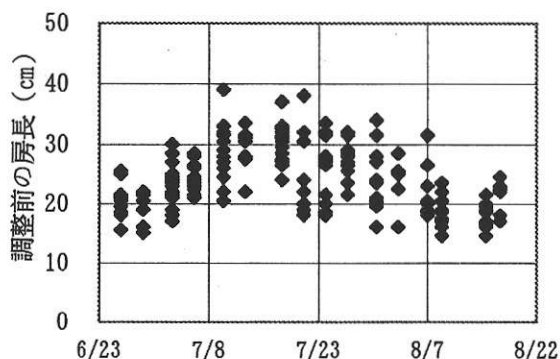


図2 収穫日と房長(ファン・ゴッホ)

調整後の房長の度数分布と、上位階級からの累積度数を‘レンブラント’について図3、‘ファン・ゴッホ’について図4に示した。通常のヒストグラムは下位階級からの累積となるが、果房を切断し調整する場合の目安を判定するために上位階級からの累積とした。‘レンブラント’の度数分布では22cmの階級に大きなピークと32cmの階級に小さなピークが見られた。

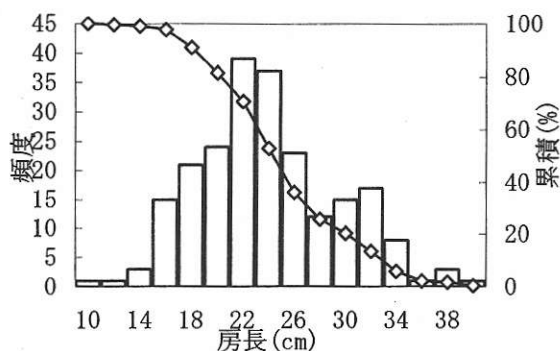


図3 調整後房長の度数分布（レンブラント）

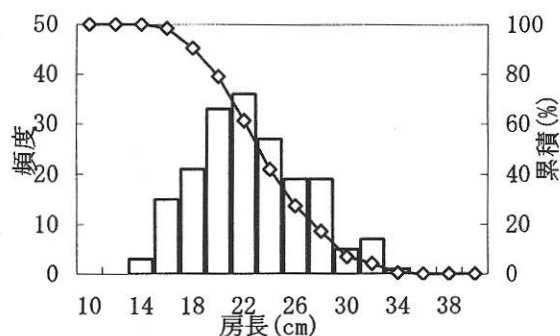


図4 調整後房長の度数分布（ファン・ゴッホ）

22cmのピークは正常な果房の分布、32cmのピークは間延び果房の分布と考えられた。上位階級からの累積度数では20cmの階級で約80%となった。‘ファン・ゴッホ’の度数分布では22cmに大きなピークが見られ、32cmに‘レンブラント’に比較すると小さいが、ピークが見られた。これらは正常な果房と間延びした果房の分布と考えられた。上位階級からの累積度数でも‘レンブラント’と同様に20cmの階級で約80%となった。房どり果数と調整後の房長の関係を‘レンブラント’について図5、‘ファン・ゴッホ’について図6に示した。調整後の房長がおよそ20cmの果房では、‘レンブラント’で7～9果、‘ファン・ゴッホ’で6～8果となった。

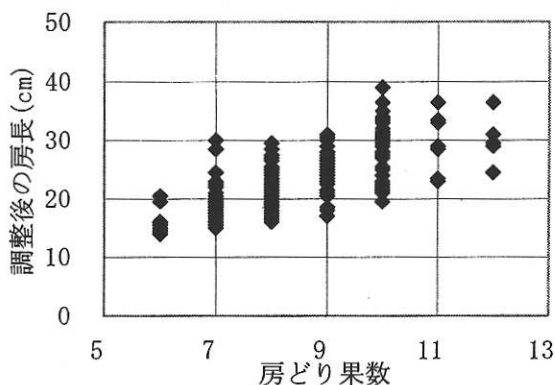


図5 房どり果数と房長の関係（レンブラント）

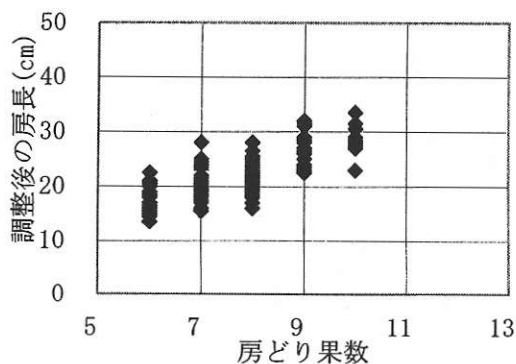


図6 房どり果数と房長の関係（ファン・ゴッホ）

以上のことから、房どりトマトで問題となる間延びした果房は収穫期間で発生が多い時期があり、4月上旬定植の場合は7月中下旬であると思われる。また、収穫後の調整では‘レンブラント’、‘ファン・ゴッホ’ともに20cm程度に調整することで、房どりでできた果房のおよそ80%が商品として出荷できると思われる。その場合の果実数は‘レンブラント’で7～9果、‘ファン・ゴッホ’で6～8果となる。

4 ま と め

房どりの収穫が可能と思われた2つの品種‘レンブラント’と‘ファン・ゴッホ’を対象に、収穫時の果房形質を調査した。両品種とも7月中下旬に調整前の房長が長くなり、この時期に果実数に対してつが間延びした果房の発生が多くなるものと思われた。

‘レンブラント’、‘ファン・ゴッホ’ともに果房を20cm程度に調整することで、房どりでできた果房のおよそ80%が商品として出荷できると思われた。